

秘密結社

声優はVisualに出るな！会議

TCVV

<http://www.tevv.org/>

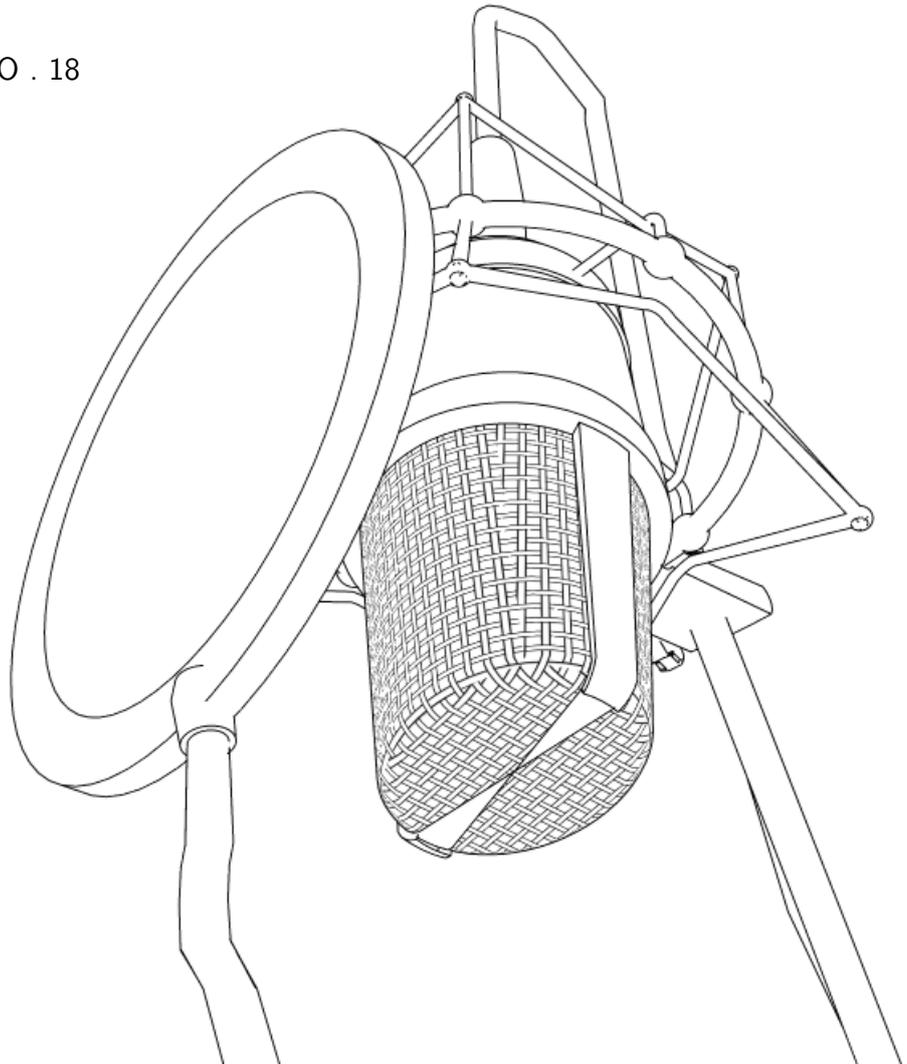
TCVV 白書 第 18 号 通巻 21 号 2016 年 12 月 30 日発行（不定期発行）ISSN 2185-9043

TCVV 白書

記事 1:: 議長放談スペシャル

記事 2:: 声優システム論-特論スフィア-

The TCVV Whitepaper 2016 NO. 18



声優は Visual に出るな！宣言 Ver1.11

声優は Visual に出るな会議 決議第 00000 号

声優は映画俳優・舞台俳優に比べ声だけで勝負をするという過酷な生業である。映画・舞台俳優は身振り手振りが付加されるので視覚に訴えることが効く。が、声優はそうは行かない。だからこそ高度な演技力が必要とされるのではないだろうか。現在、第四次声優ブームと言われているそうだが、何か違和感を感じずにはいられない。最近の「声優」と呼ばれる人々は Visual、その他のメディアに頼りすぎ・出過ぎではないだろうか？今やマーケティングでメディアを十分に活用すれば、そこら辺のお姉ちゃんでさえも CD をあつという間に売ってしまう。この状況を「沈黙のミリオンセラー」*1とは良く言ったものである。「声優」自体が今やメディア戦略によって商品になってしまったと思う。この戦略は聴衆を気がつかない間に購買者に変えてしまう巧みなシステムだと考える。しかし、このシステムは本来の価値。つまり「声のプロフェッショナル」としての声優を正当に評価していないものであると言える。

舞台俳優の中には決して Visual に耐えられる人ばかりではない。が、そのような人が舞台に立てるのは、人を引き付ける演技力を持っているためであると考え。一方、声優の質は低下している。これは最近のアニメーションは高度な演技力を必要としないものが多くなっているからといえよう。そうなれば声優の質が低下するのは至極当然のことである。*2 従って、高度な演技を必要とする作品では声優の能力の限界が露呈してしまう。例えば、劇場版新世紀エヴァンゲリオン最後の最後はアスカのほんの一言で終わる。*3 しかし、この台詞は始めに用意してあったものとは違うものであったようだ。本来は「あんたばか？」であったようだった。が、声優の力量不足のため、結局「気持ち悪い。」へと変更を余儀なくされた。完全に声優が役に負けてしまっていたのである。結果、作品は中途半端に仕上がってしまい損害を被ったのは我々聴衆者である。

声優が新境地を求めるのもいい。しかし、声優も役者であるのだからまず足場を固めてから進出するのが筋と考える。我々は、健全な日本アニメ・マンガの質を守るため、ここに「声優は Visual に出るな！」を宣言する。

*1 誰もが知っている訳でもないのに 100 万枚以上売ったレコード・CD のこと。一昔前は 100 万枚といたら大部分の人がその曲を知っていた。

*2 劇場版 Evangelion のパンフレット（春、夏ともに）にて清川元夢氏はプロ意識なき声優への批判とも解釈できる発言をしている。これは非常に勇気ある発言と言える。（普通はこういう事は映画のパンフでは言わないであろう。）

*3 実は Evangelion はヲタク（庵野氏）によるヲタク批判であったことはあまり報じられていない。ヲタクの皆様はそのメッセージを受け取れなかったとのこと。（レイとシンジが列車に乗っていて会話をするあのシーンが批判部分とされている）

目次

巻頭言	5
1 『声優アワード』 Watch Vol.6	6
2 Chairman's free talk SPECIAL -議長放談スペシャル-	7
3 声優システム論	11
編集後記	14

声のチカラ

ナレーションをはじめアニメや映画など様々な場面で活躍する声優。一人で様々なキャラクタを演じ分ける能力に驚き、時には感極まった演技で心を打たれ、はたまた怒気迫った演技で身震いしたことも少なくないと思う。

そんな声優界も 20 年前、メディアミックス黎明期には玉石混交状態になってしまい、作品の質が落ちたこともあった。それから 20 年、極端に酷いものは減ってきたと思う。

しかし、ここに来てアイドルの声優化は一段と加速している。我々はアイドル声優を全部否定している訳ではないし、メディアに出ること自体も否定している訳でもない。だが、作品をダシにしてアイドルを似非声優として売り出す昨今の姿勢には断固反対である。

声優というのは声だけで勝負をするという過酷な生業である。特に叫びと泣きの演技は大変むずかしいと思う。ただ泣いたり叫べば良いというものではない。また、感情をむき出しにすれば良いというものでもない。本当に巧い泣きや叫びを聞いた時には鳥肌が立つ。その時、声優が持つ声のチカラに感動しその凄さを再認識する。

もし、似非声優が十分な技量がないまま泣きや叫びをしたとしたらどうだろう。たちまち作品がぶち壊されてしまうのは火を見るより明らかである。

作品が壊されてゆくのをただただ見ているのは耐え難い上に、作品を壊した似非声優が「声優でござい」と言って真に感動を与える声優と同じ扱いになるのは実に腹立たしい。

いま、まさに 20 年前にあったような粗製乱造声優がまた大量生産されようとしていると思う。

我々は作品と作品に真摯に取り組む声優を守りたいと思い TCVV を立ち上げて来年で 20 年を迎える。声ヲタの出来ることは小さいかも知れない。

今、我々に出来ることは

アイドルの似非声優化阻止！

に他ならない。

業界が仕掛ける甘い罠に安々と乗ってはいけない。そこに乗ってしまったら声のチカラという無形の財産を失ってしまう恐れがあるのだ。

見た目に騙されてはいけない。声のチカラを大切に思う我々と思想を同じくする人達が己の耳を信じて声のチカラを持つ本物の声優を見極めることを願って止まない。

1 『声優アワード』 Watch Vol.6

TCVV 情報管理部 調査課 声優アワード担当

声優アワードも気がつけばもう第 11 回。ちょうど 10 年前、縁の下の力持ち的な存在であった声優を顕彰するものとして設立された。

アイドル声優が台頭し声優に対する注目度は上ったものの逆にアイドル声優ばかりが注目され、優秀な人材が適正に評価されておらず今後の行く末に不安があった。

そのような中、力のある秀でた人々が日の光が当る場所にて表彰されることは励みになる。このことから声優アワードは非常に良い事だと思い TCVV も注目していた。

しかし、いきなり第一回目でその期待は裏切られた。大方の予想に反した意味不明な授賞が行なわれいきなり荒れた。ネット界限ではその内容の酷さから早々に見限られ、以来、注目度は落ちる一方であった。

そして、決定的になった事件が第 5 回声優アワードで起こった。この回の酷さは目に余るものがあり、もはや黒歴史と言っても良い。どうも業界内でも声優アワードの評判は良くなかったらしく辞退者が続出し主催者側より『調整に苦労した』というトンデモコメントが出た。調整せにゃ受賞者が出ないのかよ wwwwww

その後、改革が行われ第 6 回ではそこそこ見られるようになったけど、時既に遅し。そんな感じでこのほど第 11 回を迎える。

さて、今年 3 月に発表になった第 10 回の受賞者の顔ぶれを見ると、最多得票賞は神谷浩史が 5 年連続で受賞した。次回も受賞すると思われたけど既婚発覚により別の人間になる公算が強い。それでも神谷浩史が受賞したら、それは本物だと思う。けれども所詮人気投票の枠を超えないのでまずそれはないと踏んでいる。

水瀬いのりの主演女優賞は「ここさけ」功績での受賞なので納得感はあるものの、高橋李枝、上坂すみれの新人賞は相変わらずよくわからない基準で選ばれたという印象。特に上坂すみれは今さら新人賞かよと。

第 1 回の平野綾の新人賞授賞を思い出してしまった。

声優アワードは受賞すると仕事がなくなるというジンクスが生まれたほどだったけど、高橋、水瀬の二人に関しては逆に伸びた感がある。高橋に関しては寧ろ今年度の方が『印象的』だった気がするので本来であれば第 11 回で受賞するのが妥当だったのではないかと。また、そのせいで他の新人などが震んでしまっている感じがある。

ここ 1、2 年は新人が登場しているにもかかわらず、印象に残っている者が極めて少ない。新人声優が多過ぎて上、水瀬、高橋の出番が多く相対的に薄くなっている気がする。そんな混戦状態の新人の中、茜屋日海夏、鈴木絵里が頭一つ出ている感はある。M.A.O の新人賞受賞も考えられるが、ステルス性能が高く出ていたことすら気が付かないことが多いので『印象的』という重要なファクターを満すことが出来るか疑問である。

主演賞に関しては映画『君の名は。』が空前のヒットをしたことで主演してる 2 人が受賞する可能性が出てきた。神田沙也加の例もあるので大いにあると思う。

また、歌唱賞に関して最早該当者なしで良い。そもそも歌唱賞に必然性はないから。そんな感じで生暖かい目で来年 3 月の発表を見守るとする。

2 Chairman's free talk SPECIAL -議長放談スペシャル-

-オマエラが思っていることを書いてやるぞ(上から目線)-

1. 『それが声優!』はやさしい虐待

ご存知、浅野真澄原作で新人声優の厳しさを伝える漫画・アニメですが、全然甘い。そりゃあ、暗い話をするよりサクセスストーリーにした方が良いに決っている。けどね、声優志望 30 万人と言われる中、現在声優は 1 万人、さらに本業で喰って行けるのは 300 人とされている。この数字が全く見えてない。まずは 30 万人のうち 29 万人が脱落して 1 万人になる過程を描写して欲しい。無駄に希望を持たせるのよは良くない。声優は金持ちにしかねないんですよ。脱落して去った人のことを書いてよ。

日ナレの CM を見るたび思う。酷い CM だよなど。早めに諦めさせるのも愛情だと思うのですよ。

あと、CD ドラマからアニメ化する際に配役変更した話では無理矢理前向きな話にしているけど、あれは頂けない。キャスト変更で双葉がショックを受ける話だが、寧ろショックなのは制作側の都合でおいでけぼりを喰らった視聴者の方だわと言いたい。

でもまあ、もっとも、これに深くツッコミをしようものならキャスト変更における最大の禁忌を冒した『おとぼく事件』*4の間接的な当事者である浅野真澄に盛大なブーメランが帰ってくるのでツッコミできないという話もあるでしょうけど。

2. ガリナンの柴崎

『それが声優!』はマイルドな感じだったけど、ガーリッシュナンバー(以下、ガリナン)は比較的エグい。(その割に日ナレが制作協力しているんだよな)

シナリオに批判も多いようだけど我々声ヲタにとってはこっちの方が面白ろかったりと思う。『それが声優!』はやさしい虐待だと述べたけど、ガリナンの方が生々しい上に主人公千歳とプロデューサーの二人が清々しい程のクズな点も見逃がせない。

ところで話の初期の頃、柴崎はすげー嫌なヤツと思っていませんでしたか？

でも、あの姿勢こそ TCVV が求めている姿勢であって、つまりところ TCVV は、ああいう嫌なヤツをいままでずっと、そしてこれからもずっと積極的に応援してゆくのです。

そー言えば石川由依、演技が大部よくなったと感じた。ヒロイック・エイジの頃の棒っぶりからしたら改善されているなど。関西弁のイントネーションは微妙ではあるけど...

何より柴崎役が石川由依じゃなくて良かった。

*4 Aice⁵ メンバー全員をメインキャストにねじ込むという旧スターチャイルドの卑劣極まりない行為でゲーム原作者がブログで怒り狂った事件。

3. アーティストって誰のこと？

昨今、声優が歌手デビューするとアーティストデビューと触込むようですが作詞も作曲も振り付けも他人まかせで本人は歌うだけなのにアーティスト、つまり芸術家。

『なんですか、これ。』(by 滝先生)

当該声優のファンの方からは『歌い方がアーティストなんだよ』の声も聞こえてきそうですが、それならキャラソンとどう違うんでしょうかね？

いや、寧ろ、キャラソンの方が当該キャラで歌うので難易度が高く芸術性が高いと思うのですけど。

もっと言えばユニットの場合、なんでアーティストデビューと言わんのでしょうか？

何もかも他人まかせでどこに芸術性があるのか。

何をもってアーティストなんて馬鹿げたことを言っているのかホントに分りません。

デビューする本人だって恥かしいと思っていることと思います。もし万が一、『アーティストデビューします』なんて満面の笑みで発表していたら千歳なみのクズですね。

ただ単に歌手デビューでいいじゃないか。真剣に芸術活動をしている人に失礼ですよ。

4. 文春砲に期待

週刊文春は今後、声優も積極的に扱ってゆくとか。

特にアイドル声優は格好の標的になりそうで声優ファンのみならず業界関係者も戦々恐々としていることでしょう。

しかし、TCVV の思想に賛同している諸兄であれば声優にはアイドル性なんて最初から求めておらず良い演技さえしてくれれば、あとは何でも良いと考えているハズですので文春砲なんて恐るに足りないでしょう。

TCVV が再三、指摘しているように最早、アニメ声優界隈は自浄能力がなく外圧でないと矯正しきれないところまで歪んできている。この際、文春砲で業界の悪しき状態をぶっ壊してスクラップ・アンド・ビルドしてもらいたい。我々としては殆ど痛みを伴わないので文春砲は大歓迎。いいぞ、どんどんやれという感じである。

是非、毒をもって毒を制して欲しいところです。

5. ステルス声優 M.A.O

M.A.O。市道真央が声優活動をする時の別名である。アイドルからの流入組という点で当初、我々は『また、うざいのが来たな』と思った。しかし、M.A.O は他のアイドル流入組には無い特徴がある。

声が全く識別が出来無いのである。まるでステルス戦闘機のように気が付けば出演している。しかも、演技も悪くはなく演じ分けもできる。彼女はステルス性能を遺憾なく発揮し『この声がこの人かよ』という声優本来の技能持っている。M.A.O は声優たる声優と言える。

6. 秋元康の野望を断固阻止せよ!

年末になってトンデモナイことが発表された。

秋元康が12人からなる声優アイドルグループ『22/7』を始動させたのだ。

秋元の真骨頂である徒党を組んで攻めてくるスタイルで勝負する構えだ。しかも『声優からアイドルを作る』ということ公言しておりこちらをバカにしているかのような態度だ。まちでこっち来んなと言いたいところである。

正攻法で声優になるには非常に狭き道ですがアイドル声優オーディションであれば一発逆転も狙える訳です。ますます技量の無い声優が増えてきそうです。

我々は秋元康の野望を断固阻止し、ヤツにだけは『勝ったなガハハ』と言わせたくないと思う。

7. キングの次のリストラ候補は誰だ。

キングレコードの露骨なまでのリストラには驚愕した。

田村ゆかりは切られる前に自ら出ていた体になっているが喜多村英梨と小松未可子に関しては完全にリストラ。戦力外通告に等しい。

小松未可子は『来年もはぴこしライブができると思っていた』と話していたとのことですが、ちょっと慢心がありすぎたのではないですか？

これまで旧スタチャのタイアップで多くの作品に出ていたことを考えると先細りしそうです。

キタエリに関しては、**これまでもレーベルを転々としている流浪の民**なので大した話ではないと思う。それに彼女自体、面の皮は声優界でも厚い方だと思うし何の心配もない。

商業主義むき出しのキングレコードとしては今後は小倉、水瀬に大きく舵を切ってくることは間違いない。ドル箱である、なのはシリーズにも大抜擢されたことが何よりの証拠。

で、今回切られなかった上坂すみれ。今のところ辛うじて残留しているけど、明らかに水瀬と小倉の程には力がいっていない。上坂は資産価値があるので暫くは手放さないとと思うが、これまでのスタチャでの航跡を見ると小松未可子ルートに近く次のリストラ対象ではないかと考える。

8. おまけ

TCVV 白書 18号のTCVV 白書のTCVV 短観。新人ランキングを再掲してみた。

27位小倉と107位の水瀬いのり。まさか3年後に肩を並べるとは思っても見なかった。しかもキングレコードの文字通りドル箱を支える存在になるとは予想だにできなかった。

なるべく多くの新人をとる思い無名有名関係なく集計していたものだったが、ごちうさが始まる前に既に水瀬いのりの名前が記載されているとは先見の明があったのかも(自画自賛)

それにしても三澤紗千香、三年経っても伸びないね。

順位	氏名	2013/1Q	2013/2Q	2013/3Q	2013/4Q	単純活性度	感覚活性度
26	内田真礼	4	2	3	2	2.75	1.56
27	小倉唯	1	2	4	2	2.25	1.56
32	洲崎綾	1	3	3	1	2.00	1.25
36	小松未可子	0	3	2	2	1.75	1.25
37	石原夏織	0	1	2	3	1.50	1.25
44	赤崎千夏	1	2	3	1	1.75	1.13
50	瀬戸麻沙美	2	1	3	1	1.75	1.06
51	上坂すみれ	1	1	2	2	1.50	1.06
60	山本希望	2	1	1	2	1.50	0.94
61	小岩井ことり	0	1	3	1	1.25	0.94
68	浅倉杏美	0	3	1	1	1.25	0.81
68	大久保瑠美	0	3	1	1	1.25	0.81
73	西明日香	0	1	1	2	1.00	0.81
77	大坪由佳	2	1	1	1	1.25	0.69
77	五十嵐裕美	2	1	1	1	1.25	0.69
79	村川梨衣	1	0	2	1	1.00	0.69
82	木戸衣吹	1	1	1	1	1.00	0.63
91	沼倉愛美	2	0	1	1	1.00	0.56
91	大橋彩香	2	0	1	1	1.00	0.56
97	渕上舞	1	0	0	2	0.75	0.56
107	水瀬いのり	0	0	1	1	0.50	0.44
123	大原桃子	1	0	1	0	0.50	0.25
126	田所あずさ	0	0	0	1	0.25	0.25
126	松嵜麗	0	0	0	1	0.25	0.25
126	近藤唯	0	0	0	1	0.25	0.25
134	三澤紗千香	0	0	1	0	0.25	0.19

3 声優システム論

- 特論スフィア -

TCVV 議長

今回の声優システム論。特論として長年に渡り観察してきたスフィアについて論じてみようと思う。

1. はじめに

以前本書の本論（声優システム論 10）にてスフィアについて言及した。

スフィア以前、事務所主導で結成されたユニットはことごとく失敗してきた。しかし、スフィアはミュージッククレイン（以下、ミュール）の巧みな戦術・戦略によりこれまで失敗してきたユニットの轍を踏まないように慎重に行動した結果、大いに成功を納めた。

何を持って成功したとするかは議論の余地があるが持続性は重要なファクターだと考える。事務所主導ユニットとしては現在最も長い。

μ'sやアイマスなど成功しているユニットもあるが、あくまでも作品に紐づいているユニットであり持続性という点で疑問である。

筆者はそのスフィアの成功を見た時、これまでの声優ユニットの形を打破出来るのではなかと心の底から思っ大いに期待していた。そして確かに言及当時では最も成功したグループだったと思う。

しかし、今現在の活動の様子をみると正直、従来の声優グループとの差異はなくなってしまっており、正直残念な感じしかしない。こんじまりとまとまってしまう良い意味でも悪い意味でも『優等生なユニット』にしか見えなくなってしまった。

後から出来た妹分のトライセイルの方に心が移ってしまった人少なくないと思う。

スフィアなら全く別の声優グループの新しい活動が創造されるものと期待していた。期待が大きすぎたのだろうか。

2. スフィアのキセキ

スフィアが成功したと判断した理由を復習しよう。

結成時、既にメンバーはある程度名前が知れていた。まずもってこれが大きい。

ソニーパワーを背景として個々人の出演数を増やしながらメンバーの名前を浸透させておいた。しかも、メンバーを小出しにして一度に全員出さないようにすることでゴリ押し感を和らげ反発を上手くかわした。（多少、戸松ゴリ押し感はあったけど....）

大々的にスフィアメンバーが出演したのは夏色キセキぐらいだろう

また旧スタチャのように作品を壊すような無謀なキャスト変更など無茶なブッコミ方もしてこなかった。

そして何より新人を売するための材料に使わなかったというのが大きい。

萌える声優と萌えない声優を一緒にして萌やそうとする『声優版プルサーマル計画』。旧 StylipS、今は亡きラムズのクローバ、そして LISP はこれで失敗した。新人の売り込み感が非常に強く前面にでて反発を食らっ

てしまった。^{*5}

事務所主導のユニットにありがちなこの作戦に出なかったことが何よりも大きい。

ミュールは「アニメファンがやられたら嫌なこと」をしない。筆者はスフィア結成時に感じた。そして同時にミュールはスフィアを離陸させるために用意周到に準備し慎重に進めていたのを凄く感じていた。

3. アニメ・声優界の三菱

ミュールは声優界の名門中の名門だと思う。他の事務所のように毎年定期的に応募があるわけではない。しかも、これまでに2回しか応募がなく、それも厳しいオーディションしかない。

ホリプロだって名門であり所属するのは決して楽ではないけど格が違う。

ミュールはソニーを背景とした巨大グループの一翼を担っている。

いくつかの電機メーカーは過去にエンタメ部門を持っていたが長らく続いた不況で本業回帰をはかった結果、東芝、パイオニアはアニメ制作から手を引いた。そんな中、ソニーは逆にアニメ制作会社を作ってしまった。グループ内で全て事足りてしまう程だ。アニメ界の三菱と言っても過言ではない。組織という視点から見ればミュールの方がホリプロより明らかに格上である。

先にも述べたが声優で食べてゆけるのは300人程度しかない。逆に考えれば、この300人はエリートとも言える。そのエリートの中でもミュールという事務所に所属しているというのはエリート中のエリートだ。三菱で言えば御三家の幹部社員と考えて良い。

一時期巷を騒然とさせたストーカー事件で、いち早く沈静化をはかった点も『組織の三菱』に非常に良く似ている。

4. 尖鋭化という要素はない

声優はここ20年余りで差別化の在り方が変わって来たと思う。『何かしら尖ったもの』が無いと売れない。言うなれば尖鋭性(尖り方、尖らせ方)が変わって来た。従来の尖鋭化は『演技が凄い、声色が多数出る、特徴的な声』という声優における基本的なものが前面というか全部だったのに対して、昨今では『何かが秀でてい』る』がより前面に出ていることが重要になって『この人は何かが違う』という差別化を全面に出して来ていると考える。

しかし、そのような世の中であってスフィアのメンバーには先鋭化という要素はない。ユニットとしても個々人としても奇をてらうこともないし、はっきり言って大きな特徴もない。

変な先悦化をミュールが図ってこなかったことに関しては素直に感服する点である。

それもこれも強大な資本力を背景にある程度作品に出られる保証のようなものがあって敢えて先鋭化させる必要性がなかったとも言えるが。

5. スフィアの脆弱性

オーディションで勝ち抜いて来たという所ではホリプロ声優と似ているが、決定的に違う点は当初からユニット前提でメンバーが選出されたという点。ホリプロでは木戸衣吹、山崎エリィがユニット『every ing!』を組んでいる。しかし、最初から企画されたものではない。力の入れ方を見てもそれが良くわかる。

^{*5} LISP は臨界点まで達しませんでしたけど...

スフィアは最初からユニット前提で一人一人がユニット用に最適化されて設計されている。すなわち声優とユニットが表裏一体化している。

しかし、そこにこそ脆弱性があると考える。

いま、スフィアは行く先が見えない迷走期に入っていると個人的に思う。

- トライセイルにより存在感が希薄になりつつある。
- 各人の特徴の少なさ。
- メンバー間の格差が広がりバランスが悪化となる要因。
- ミュールとメンバーの意識のズレはないか。
- ミュールの制約が厳しく(もしくは過干渉で)成長を阻害しているのではないか。

まずファンの興味がスフィアからトライセイルに移ってきてないか。

トライセイルはスフィアを先例により洗練された戦略で来た。^{*6}

さらに麻倉ももという頭のおかしいミュールの核弾頭先鋭化キャラがいることでトライセイルの方が尖り方が鋭いものがありスフィアが持っていかれてしまった感がある。(これはミュールも予想外だったと思うが)

個々では声優デビューしてから10年経つメンバーもいる。

今はメンバー間での格差は大きくないが、この先、格差が広がって行けばバランスが悪くなってくると思う。

スフィアは声優とユニットが高度に一体化しているので、バランスの欠落は致命的である。

そしてミュールとメンバーの意識にズレはないだろうか？

例のストーカー事件があった際、メンバー四人はブログにてしきりに「役者」を強調しアイドル性は否定していた。しかし、ミュールを見ていると役者よりアイドル性、すなわちドル売りをしたい姿勢がそこそこに見える。そこに意識のズレはないだろうか。SMAPみたいなことにならないとも限らない。構造的には、SMAPと同じなのだから。

そして自主性が見えない。ミュールは非常に制約が厳しいことで知られる。これが自主性を阻害、ひいては個人の成長を阻害していないか。

声優の中では自ら劇団を立ち上げたりするものがある中、ミュールに完全に囲われた籠の鳥状態である。敷かれた線路を歩いているにしか見えみえず、そこに意思らしいものが見えない。ホントに役者を目指しているのであればガリナンの柴崎のように我慢ならないだろう。このような点が爆発してして誰かしらがメンバーを割って出ていってしまえば、四人で最適化されたスフィアは壊滅的なダメージを受けることは必至である。

逆にこの点が打破できれ、真の意味で飛躍するものと考える。また、この問題を解決すると自動的にトライセイルも飛躍するのではないかと考える。

6. 今回のまとめ。

- 優等生なユニットになってしまった
- ミュールはアニメ・声優界の三菱
- ミュールの規律の中で自主性をどう出してゆくのか
- 麻倉ももはミュールの核弾頭

^{*6} 個人的には夏川椎菜の知名度を十分に上げてから結成するものと睨んでいたけど

編集後記

本誌をご高覧頂きありがとうございます。

お久しぶりです。三年振りに声優島に戻って来ました。また本誌を初めて手に取ったの方は、はじめまして。はじめましての方に説明しますと TCVV は**作品が主であり役者は従である**という基本理念を持って 1997 年の盛夏に設立されました。

声優は演技が基本という姿勢を貫き圧力団体として活動して来年で設立 20 周年を迎えます。

今回は久々の復帰ということで、いつもの内容と若干変えて編集しましたが物足りなさがあったかと思えます。次回は 20 執念祈念周年記念も絡めて色々と考えています。

この三年間、ずっと見て来ましたが声優の勢力範囲が随分と変わったと思えます。

そしてユニットが無駄に増えたという印象です。昨今、猫も杓子もユニット、ユニット、ユニット。それしかないのかよ!とツッコミたくなる。半ばラブライブ! が上手く行き過ぎたんでみんな、その路線に乗りたくするには分らないでもないですが、それにしても増えすぎです。

中には作品前提のユニットにもかかわらず主体が声優になってきているものもあり許せません。作品が終わったら『ハイさよなら』でしょう。使い捨てる気が滲みでています。

今回本誌のテーマはユニットをキーワードに編集しました。

ユニットと言えば 1 月からアニメが始まる BanG Dream!(バンドリ)。ブシロードによる声優物量大作戦。自社声優も大量投入しラブライブの二匹目のどじょうを狙っているのが良く分かります。物量大作戦は旧スタチャが良くやっていた作戦ですが、鳴りもの入りでやった企画が大コケするなんてのはザラにありますし、ここは静観するとします。

あと、秋元康も良からぬことを企んでいるようです。しかもソニー、アニプレックスもからんでいるとのことですので話が厄介になりそうです。でも一番厄介なのは秋元がグループ活動を最も得意とするからです。もう、嫌な予感しかしません。

バンドリも秋元康の企みも双方ユニットという点では同じですが、よくよく見ると中身に違いがあります。バンドリの方は何だかんだ言ってもブシロードがコンテンツビジネスとして展開しているので作品にも力が入っているようにも見えます。しかし、秋元のプロジェクトの方は明らかに作品をダシにして声優をアイドルとして売り出そうとしているのが見え見えです。これは TCVV の思想から真っ向対立するものであり、許しがたい暴挙以外に何モノでもなく断固粉碎しなければなりません。ルックスも重視しているようなので声豚様が飛びつきそうですが、AKB0048 の悪夢を覚えているはずなので秋元の見論見どおり簡単には事が進むとは思えません。

さて、最近の新人声優の名前が覚えられません。歳の所為かもしれませんが、大量に流れこんで来ている割に一発屋的になってしまっているためかと。

最後にお詫びですが TCVV 公式ページ。契約更新を忘れており現在、接続出来ません。大変申し訳ありません。幸いドメイン名は失効していませんので自前サーバを立てて至急更新いたします。

来年は設立 20 周年ということで充実した内容で検討しようと思えます。次回もよろしくお願い致します。

2016 年 12 月 28 日 TCVV 議長 萱沼真一

TCVV 白書 第 18 号 通巻 21 号

発行 「声優は Visual に出るな!会議」 情報管理部

組版 L^AT_EX2e (Cloud L^AT_EX)

発行日

2016 年 12 月 30 日 (初版)

連絡先

「声優は Visual に出るな!会議」

代表者 萱沼真一

URI <http://www.tcvv.org/>

E-mail info@tcvv.org

Twitter <http://twitter.com/tcvv>

Copyright (C) 2016 The council of ‘Voice actors should not appear in Visual’

本文に一切変更を加えず、この著作権表示を残す限り、この文章全体のいかなる媒体における複製および配布も許可する。